

◆**単元名**：第4章 私たちの暮らしと経済 1 消費生活と市場経済

「④ものの価格の決まり方」(教科書 pp.126-127)

◆**本時の目標**：

需要者と供給者の立場を疑似体験することにより、需要と供給それぞれの特徴や定義を正確にとらえ、需要と供給の関係で価格がどのように決定されるのかを、グラフを用いて理解する。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ●最近買った商品やサービスの価格を思い出す。 【問】「最近した買い物で何をいくらで買ったか。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物を思い出させた後、もし2倍の価格だった場合、半額だった場合ならどうしたかを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数人の発表の後、スクリーンや電子黒板を使って、教員自身が最近購入した商品を例示し、2倍の価格、半分の価格だったらどうなるかを説明する。
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ●ある商品について、高い順に提示される4段階の価格に対し、それぞれの価格で購入する場合は挙手を行う。 ●「チラシを折るアルバイト」の求人があるとして、時給いくらなら人が多く集まりそうか、4段階の金額で挙手を行う。 ●資料④のグラフから、りんごの価格はいくらが適正なのかを考える。 【問】「どの価格がベストで、それはなぜだろう。」 ●150円、70円という価格だった場合に起こることを、グラフを用いながら想起する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が用意した商品について、例えば400円、300円、200円、100円と提示し、徐々に手を挙げる人が増えていくことを実感させる。 ・時給が上がるごとに挙手をする人が増えていくことを実感させ、供給量の増減の特徴をとらえさせる。 ・反射的にグラフの交点を答える生徒が多いと思われるが、その理由を問うことで考察を深めさせ、正しい理解へ導いていく。 ・超過供給により価格が下がることや、超過需要により価格が上がることを、発問と図示で説明していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書〈p.127・④「需給曲線」〉をスクリーンに映し、価格が低くなるほど需要量が増えていく様子を見せる。 ・デジタル教科書〈p.127・④「需給曲線」〉をスクリーンに映し、価格が高くなるほど供給量が増えていく様子を見せる。 ・デジタル教科書〈p.127・④「需給曲線」〉の需要と供給曲線を同時に映し、150円、100円、70円での需要量と供給量を比較しながら示していく。 ・デジタル教科書〈p.127・④「需給曲線」〉の、150円と70円での需要量と供給量、価格の動きを、発問と解答に応じて映し出していく。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ●キャベツが廃棄される理由を、需要と供給の関係から考察する。 【問】「農家にとってキャベツの超大豊作とは。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・需要と供給のバランスが崩れると、実社会でどのようなことが起こるのかを理解させ、他の事象についても探求する態度を喚起させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒とのやり取りの後、デジタル教科書〈p.126・①「廃棄処分されるキャベツ」、②「月別入荷量と平均価格」〉を映し、発問を適宜加えながら、価格に与える影響を確認する。

◆指導にあたって：

○日常生活で需要者として市場に参加し、消費活動を行っている子どもたちは、価格と需要量の関係性は理解しやすいだろう。一方で、薄利多売の社会に生まれ育ってきたことから、「りんごの価格が高くなるほど、たくさん売ろうとする」という供給についての教科書の記述は、実感が伴わず理解に苦しむ生徒が多く出ることと予想される。そこで比較的生徒が想像しやすい労働市場を例に、価格と供給量の関係を考察させた。

◆デジタル教科書活用のねらい：

○本時のように統計資料を中心に授業を行う場合、時間を効率的に使うためにも、チョークで黒板にグラフを書いて説明していくのではなく、デジタル教科書をうまく活用して進めたい。必要な部分を加えたり、不要になった部分を消したりする作業もクリック一つで簡単にでき、特にこうした授業では、デジタル教科書の活用は非常に有効となる。



デジタル教科書 p.127・④『需要と供給と価格の関係』をクリック。

- ・「需要」の説明時は「需要曲線」をクリック。再生/一時停止ボタンを操作して、適宜丁寧に解説を加える。（*「供給」も同様に。）
- ・「均衡価格」をクリックすると、「高い」「ちょうどよい」「安い」が表示され、それぞれをクリックして超過供給や超過需要の説明も。

デジタル教科書 p.126・②『キャベツの月別の入荷量と平均価格の変化』をクリック。

- ・「入荷量」→「平均価格」の順にクリックし、価格を予想させるなどの発問を加えることにより、需要と供給、価格の関係性を明らかにしやすくなる。



◆授業の改善案・さらに活用するポイント：

○時間に余裕があれば、実際に身のまわりのものやサービスの価格の上下が、このような理論と結びつけることができるのか、事例をグループで相談・発表させてもよい。また教員がものやサービスの価格に関わる新聞記事を紹介し、その背景にある需要と供給の変化について生徒とともに考察することも、さらに興味や関心を深める一助となると思われる。

○教科書にも若干の記述があるが、「キャベツを廃棄する」ということは、農家にとって経済的打撃はもちろん、その心痛も大きいことが想像できる。このような市場経済の矛盾を、中学生とどのように共有していいのか、今後の課題として考え続けていきたい。